

特定非営利活動法人

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース



ハヤチネスユキソウ *Leontopodium hayachinense*

も く じ

愛川標本の整理を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
活 動 レ ポ ー ト	
総会報告・調査員会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 3
植物研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 3
第1回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 4
第2回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 4
第3回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 5
第4回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 6
東北の高山植物を訪ねて（2）・・・・・・・・・・・・・	P. 7
あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 8

— 愛川標本の整理 を終えて —

矢島 民夫

NPO の創始者であり前身の「さいたま植物資料研究会」の会長を務められていた愛川敬武先生が亡くなられ、早いもので 3 年がたちました。「さいたま植物資料研究会」の会誌である「さいたま植物通信」は 1999 年 4 月より年 4 回 10 年間発行され 40 号を数えました。

「さいたま植物通信」第 1 巻合本の“発刊にあたって”に見られるように、“標本があるものだけを記載するという原則で編集する”ということがありました。その結果、愛川先生宅にはご自分で採集された標本や多くの会員から標本が届けられていました。しかし、その標本の多くは（会誌の中では県立自然の博物館に納めたとある）未処理の状態で残されていました。

愛川先生が亡くなられ、残された標本は矢島が預かることになりました。その後、県立自然の博物館と相談の結果、状態の良いものを博物館の形式にのっとり台紙に張り、データを添えて納めることになりました。昨年度 1214 点、今年度は残り 1090 点の標本を作製し合計 2304 点を愛川標本として納めることができました。

その内訳を報告すると愛川敬武（1302 点）、植田雅浩（1 点）、太田和夫（93 点）、太田泰弘（20 点）、平 誠（4 点）、四分一平内（6 点）、樽見一忠（1 点）、岩田豊太郎（496 点）、ト沢美久（1 点）、森真知子（2 点）、森静江（1 点）、田悟敏弘（1 点）、長谷部操（1 点）、菊池久雄（16 点）、宇津木達（100 点）、加藤亮明（37 点）、市川嘉一（20 点）、田中湓子（34 点）、福島正男（24 点）、山岸一郎（8 点）、島崎敏明（3 点）、遠藤夏緒（1 点）、支倉千賀子（2 点）、三上忠仁（3 点）、矢島民夫（2 点）、高橋重男（1 点）、石渡孝行（24 点）、小峯昇（3 点）、牧野彰吾（12 点）、安田啓祐他（2 点）、北田義明（2 点）、廣澤信男（3 点）、長須房次郎（40 点）、清水保典（4 点）、畠山ミヨ子（2 点）、渡辺和章（1 点）、塚原節子（30 点）、能見三郎（1 点）となります。

標本の内容を見ると、シダ植物 245 点、裸子植物 7 点、被子植物 2051 点、その他 1 点となります。特にラン科 29 点の中にはトラキチラン（ト沢）、コアツモリソウ（平）、ハクウンラン（田中）、アケボノシュスラン（遠藤）、ミスズラン（三上）、ヒトツボクロ（三上・牧野）、ユウシュンラン（平）などの県内で初めての標本や貴重な標本が多数含まれています。

「さいたま植物通信」40 号が発行されてから、3 年が経ってしまいました。何とか再発行ができるようにと考えています。それにはみなさんの協力が必要で、調査・採集・標本の整理・報告と手間のかかる作業を地道にこなすこととなります。しかし、これからの NPO 活動にとって必要不可欠な部分とも思われます。

現在いくつかの出版物が計画されていますが、そのもっとも重要なものが「埼玉県植物誌」の改訂であると思われます。1998 年版が出版されてから、15 年目となります。この間に 2 回の「レッドデータブック（植物編）」の改訂があり、多くの資料が集められてきました。これらを生かすためにも、さらに充実した資料収集に努め「埼玉県植物誌」の改訂に向けて進みたいと思います。

活 動 レ ポ ー ト

【総 会】

日 時：平成 24 年 6 月 3 日（日）10:30～12:00

場 所：寄居町中央公民館 研修室

出席者数：会員 49 名中 41 名（内書面による出席 15 名）

当日は、平成 23 年度事業報告、決算報告、平成 24 年度事業計画、予算案、
役員の報告

任期満了により役員の改選が提案され以下のように決定された。

代表理事 牧野彰吾

副代表理事 矢島民夫、永戸健、米林仲、田中実

理事 尾形一法、金子康子、木口博史、木村和喜夫、高橋重男、田中実、永戸健、
牧野彰吾、矢島民夫、山下裕、米林仲

事務局長 田中実、事務局次長 木村和喜夫

監事 篠葉利夫、森廣信子

総会に先立ち理事会が開催されました。途中代表理事候補者の選出が行われました。

日 時：平成 24 年 6 月 3 日（日）第 1 回 10:00～10:30、第 2 回 11:10～11:25

場 所：寄居町中央公民館 研修室

出席者数：理事 11 名中 9 名（内書面による出席 2 名）

第 1 回 平成 23 年度事業報告、決算報告、平成 24 年度事業計画、予算案などが審議さ
れました。

第 2 回 新理事による互選の結果、代表理事候補に牧野彰吾氏が選出されました。

【調査委員会議兼調査員会議】

日 時：平成 24 年 6 月 3 日（日）13:00～15:00

場 所：寄居町中央公民館 研修室

出席者数：会員 30 名

- 1 再改定「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」の報告
- 2 平成 23 年度会計報告、平成 24 年度予算案
- 3 平成 24 年度に行うべき業務の打ち合わせを行う。

調査する希少野生植物種の種類と調査報告書の記入について

【植物研修会】埼玉県高校生物研究会共催

日 時：平成 25 年 2 月 23 日（土）～24 日（日）10:00～15:00

場 所：小川げんきプラザ（小川町）

参加人数：18 名（指導者：牧野彰吾ほか 10 名）

活動内容：一日目・検索表の読み方、植物図の作成、シダ植物の観察を行う。夜は食堂で懇親会を開き、情報交換を行う。二日目・朝食後牧野会員より冬芽の観察を中心に附近の観察を行う。その後、研修室に移動し、一日目の作業の続きを行う。

【第1回 春の野外観察会】

日 時：平成 24 年 5 月 8 日（火）10:00～15:00

場 所：寄居町（桜沢）・美里町（猪俣）

参加人数：24 名（指導者：高橋重男・矢島民夫理事）

天 気：晴れ

活動内容：寄居町桜沢から美里町猪俣の路傍の植物観察

5 月 8 日、矢島さんの参加を得て、寄居町桜沢地区にあるスーパーの駐車場脇に総勢 24 名の会員が集まった。

先ず J R 八高線に沿った畑道を用土駅の方面に進むこととした。スーパーに近い道端にはイヌムギ、アメリカフウロ、オッタチカタバミなどの外来植物に混じって、ノミノフスマ、カラスノエンドウ、ノボロギクなども見える。さらに進んで八高線に沿った草むらには牧草が沢山でてきた。この地区は乳牛を飼育する農家が点在するところで、ネズミムギ(イタリアンライグラス)、



カラスムギ、オニウシノケグサ（トールフェスク）、アカツメクサなどの牧草の他、オオブタクサ（クワモドキ）、オニノゲシ、イヌキクイモ、ハルジョオン、ナガバギシギシ、ヒロハギシギシ（エゾノギンギシ）など多彩である。更にヤブカンゾウ、ナガハグサ（ケンタッキブルーグラス）、ワレモコウに加え、最近目立つようになったツボミオオバコもでてきた。

やがて戦国時代にあった用土城の跡に着き、最近建てられた立派な公民館の横を、八高線と直角の方向で左に折れ、蓮光寺に至る町道に向かった。道端にナヨクサフジの群落が現れ、ヒメオドリコソウやナガミヒナゲシも生えている。

蓮光寺は「ボタンの咲く寺」として有名で多くの種類が植栽されている。また寄居の七福神巡りのコースにあり、金箔を塗った布袋尊と福祿寿の像が黄花のボタン群に囲まれて鎮座していた。庭園にはハウチャクソウ、フタリシズカ、ヒトリシズカ、イカリソウ、ウラシマソウなどの山野草が植えられ、タラヨウ、満開のシロバナトキワマンサク、イヌシデ、タイサンボク、ハクウンボクに混じって、在来種のウスギモクセイの果実が熟して落下していた。

ここで昼食をとり、午後は鎌倉幕府を支えた武蔵七覚の一つ、猪俣覚の猪俣小平六の墓に詣で、その霊を弔うお盆の行事“百八塔”の立つ丘に向かった。

【第2回 秋の野外観察会】

日 時：平成 24 年 11 月 21 日（水）10:00～15:00

場 所：寄居町風布

参加者：18 名（指導者：高橋重男・矢島民夫理事）

天気：晴れ

活動内容：寄居町風布のミカン山を訪ねて

11月21日早朝は5℃まで下がって肌寒かったが、日中は散策に丁度よい気温となった。草加から参加する矢島さんを秩父鉄道の波久礼駅で出迎え、荒川に架かる寄居橋まで来ると両側の紅葉が玉淀湖の水面に映えて見事な景観を呈していた。緑豊かで山紫水明の我が故郷は自然災害も少なく恵まれた環境である。

旧風布分校前の駐車場に集合した参加者は18名、皆さんに盆地の中腹が暖かい武蔵逆転層がミカンの栽培を可能にしていること説明し、風布川に沿って下流へと歩みを進めた。

この集落の入口にある姥宮神社まで来ると注連縄を張った三本の杉が聳えていた。高さ約25m、胸高直径2m弱の寄居町の天然記念物である。神社横の石垣にはテイカカズラ、マメヅタ、ヒメウラジロも着生している。少し先の「風の道」入口から杉の疎林に入る。春から夏にかけてこの辺はシラネセンキュウの群落に囲まれ林床にはエイザンスミレ、アケボノスミレ、ナガバ



ノスミレサイシンが見られる。道を更に進むとウラジロが2株残っていた。この近くにはフモトシダ、ホシダ、コシダなど暖地性植物も生育している。かつてはコモチシダも見られたしウラジロやコシダは県内の北限だと思われる。

川岸を右に見ながらビナンカズラ、ジュウモンジシダ、マタタビ、ハリガネワラビ、マルバウツギなど紹介し、川を2度飛び石伝いに渡って町の水道水揚水場まで来た。すると突然突風が吹いてきて、多数の木の葉が宙に舞いながら私達の方に向かってやって来た。まるで木の葉吹雪の中に立つようで、正に風の道を実感した。

やがて私達は風布川の支流に沿って山道を登り始め、フサザクラやアブラチャン、ノガリヤスやシロヨメナを観察し、見事に黄葉となったイタヤカエデの大木を過ぎて、違い沢集落のミカン園に到着した。風布のミカン山はさらに30分ほど山を登ったところにある。みどりのミカン園を見下ろす丘はクヌギの疎林で林床にはセンボンヤリの蕾が春を待っていた。小さな祠と秩父事件の顕彰碑の建つ南向きの斜面で昼食となった。正面には釜伏の山頂と県の天然記念物シロヤシオとアカヤシロが生育する花山が展望される。午後はミカン園の中の蛇行する道を下って駐車場に向かった。

(文責：高橋)

【第3回 野外観察会】

日時：平成24年11月25日（日）

場所：所沢市・菩提樹池周辺

参加者：18名（指導者：山下 裕理事）

天気：晴れ

活動内容：晩秋の植物観察。

当日9時45分 西武球場駅前に集合し、菩提樹池ならびに菩提樹田んぼを観察しました。

晩秋から初冬にかけて、丘陵地帯では、ヤクシソウやコウヤボウキ、ノコンギク、ユウガギク、センボンヤリ、キッコウハグマなどのキク科植物やリンドウ、キチジョウ



キチジョウソウの花

花を穂状につけます。花が終わったあと、紅紫色の球形液果になり、翌年になっても残ります。関東以西、四国、九州に分布する暖地性の植物です。

和名は吉祥草で、これを植えている家に、吉事があると開花するという言い伝えから、めでたい草という意味でこの名がついたといわれています。今回の観察会ではたくさん見られました。ずっと吉事があることを祈って終わりにしました。

(文責：山下)

ソウなど花をつけた植物とともに、他の多く植物が花を終え、実をつけている植物も観察できました。菩提樹池では、サジオモダカやセキショウなどを見る事ができました。この中では、キチジョウソウのピンクの花が一番でした。

キチジョウソウは、林下に生え、根茎のある多年生草本です。線形で長さ10～30 cmの無柄の葉を、根元から伸ばします。葉は濃緑色で、3～5の平行脈があります。その中から花茎が立ち、

【第4回 野外観察会】

日時：平成25年2月24日（日） 10：00～15：00

場所：入間市・彩の森公園・入間向陽高校生物室

参加者：30名（指導者：木口 博史・山下 裕理事）

天気：晴れ

活動内容：コケの植物観察ならびに同定。

当日10時入間向陽高校正門前に集合し、隣の彩の森公園で、ポプラやソメイヨシノに着生しているコケや地面に生えているコケの生態観察と現地での簡単な見分け方を実施しました。また、それらを採集し、顕微鏡で観察する方法を、木口理事から懇切丁寧に指導していただきました。



今回はコケ植物に限って実施したためか、30名と多くの参加者を得る事ができました。1時間ぐらい現地でコケを観察・採集し、昼食をはさんで4時間、向陽高校生物室で、顕微鏡を使ってコケの形態とその同定の方法を学びました。

以下は今回“彩の森公園”で採集してきたコケのリストです。

シナノハイゴケ(クチベニゴケ)、ヒロハツヤゴケ、コゴメゴケ、コツボゴケ、タチゴケ、サヤゴケ、ヒメウスグロゴケ、ハリガネゴケ、キャラボクゴケ、コバノキヌゴケ、ヒダゴケ、タチヒダゴケ、ギンゴケ

また、参加者が持参したコケには、ナガバヒョウタンゴケ、ハマキゴケ、ゼニゴケ、ヒメジャゴケ、ホソウリゴケなど

(文責：山下)

東北の高山植物を訪ねて（1）

尾形 一法

昨年続き、会員有志による東北ツアーが実施された。今年は天候に恵まれず、ほとんど雨の中の行動となりました。特に、早池峰山では強風も伴い大変困難な登山となりました。日程と観察された主な植物を報告します。

1 期 日 平成 24 年 7 月 13 日（金）～7 月 17 日（火）

2 参加者 矢島民夫、木村和喜夫、山下 裕、原 由泰、尾形一法

3 日程・コース

7 月 14 日

上尾——白岡菖蒲 IC——＜東北道＞——塩釜（神社）——気仙沼——一関——須川温泉（泊）
6:00 発 6:30 10:30 着 15:00 16:00 17:30 着

7 月 15 日

須川温泉・・・栗駒山湿原——平泉（中尊寺）——＜東北道＞——花巻東和——大迫（泊）
8:30 着 11:30 発 13:00 着 15:30 発 16:00 17:00 着

7 月 16 日

大迫——河原坊・・・早峯山頂・・・小田越——盛岡駅——西根国民いこいの村（泊）
6:30 発 7:30 着 10:30 12:30 15:00 16:30 着

7 月 17 日

いこいの村——＜東北道＞——遠野——＜滝観洞鍾乳洞＞——釜石——大船渡
8:30 発 9:50 12:00 14:00
陸前高田——気仙沼——仙台——＜東北道＞——上尾
15:00 16:00 18:30 23:30 着

4 観察できた主な植物

＜栗駒山＞

ツルアリドオシ、ハクサンシャクナゲ、ミヤマリンドウ、イワカガミ、ヤマタヌキラン、クロウスゴ、ワタスゲ、ミネザクラ、ウラジロヨウラク、マイヅルソウ、ヒナザクラ、ミヤマハンオキ、コケモモ、ハクサンチドリ、イワイチョウ、サワラン、トキソウ、ツマトリソウ、キンコウカなど

サワラン→



ミヤマアズマギク

＜早池峰山＞

ハヤチネウスヨキソウ、オオシラビソ、ダケカンバ、ナンブトウチソウ、コバイケイソウ、ミズナラ、トチノキ、ミヤマキンバイ、ハクサンチドリ、ノビネチドリ、オサバグサ、マルバシモツケ、ミヤマシオガマ、ミヤマオダマキ、ホソバイワベンケイ、タカネウスユキソウ、キバナコマノツメ、イワウメ、コイワカガミ、コタヌキラン、ミヤマアズマギク、カトウハコベ、アオノツガザクラなど

【あ と が き】

今年は「レッドデータブック」の改訂作業も済んで、調査以外の活動にも力が入りました。報告にもあるように、年3回予定された観察会が4回開催され、また小川ゲンキプラザにおいて、会員以外を対象とした宿泊研修会も実施することができました。

6月には念願の「埼玉県植物ハンドブック」の改訂作業が終了し、NPOの研修資料として第2版が完成し活用が始まりました。資料は観察会等で順調に配布され、12月末には残部がほとんどなくなりました。このため2月末には図版の改増やリストの間違いが訂正された2.1版が増刷されました。さらに「埼玉県産植物検索表」の原稿はほぼ完了し、編集作業が進行中で来年度には出版されることになるでしょう。

また今年も「さいたま植物通信」の発行ができませんでした。それにつけても10年間も続けた愛川先生の偉大さが理解できます。第1号の「はじめに」にあるように“「はじめに植物ありき」で行きましょう。”は素晴らしいお言葉に聞こえてきます。

<表紙の写真> 早池峰山頂上付近のハヤチネウスユキソウ

ウスユキソウ属の仲間は国内には5種2変種が分布している。その中でもっとも大きくヨーロッパ産のエーデルワイスに似ているのが、このハヤチネウスユキソウと言われている。残念ながらこの日は梅雨前線の真下となり、強風と大雨の中での観察で良い写真が撮れませんでした。特に薄雪草の特徴である綿毛が濡れてしまい、去年の鳥海山や秋田駒ヶ岳で見たミヤマウスユキソウのような、綿毛真っ白な個体を見ることはできませんでした。

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース NO. 6

2013年3月31日発行

編集・発行 NPO法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団

発行責任者 矢島民夫

事務局 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-5857

発行所 NPO法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団

〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-3-16

TEL 049-241-585